

皆さんお元気ですか。

12月の出来事を綴っています。ご笑覧くださいませ。



12月2日、ニカラグア日本大使館で、天皇誕生日レセプションが開かれた。日本人やニカラグアの政府関係者など数百名の人が、大使館内の広い庭に集まった。最初の安藤大使のスピーチのなかで、日本で行われた2016 Miss Internationalにニカラグア人女性が選ばれたことが発表されると大きな拍手が沸き起こった。私は、ニカラグア人が世界的な美人コンテストに選ばれるとは、驚いた。こちらに最初に来た時驚いたことは、女性がきれいなことだったが、そのきれいさが世界レベルのものであることが実証されたと思う私の目に狂いはなかったのだと思うと少しうれしい。後で友人から聞いて分かったのだけど、世界の美人コンテストには、Miss Universe と Miss International とがあるとのこと、知らなかった。そして、さらに知らなかったことは、あの米国の時期大統領の Trump 氏が Miss Universe の役員とのこと。驚いた。



先月、一時帰国した際に、友人から聞かれたことで、一番多かったことは、ニカラグアで何を食べているの、との質問。左写真が、私のよく行くレストランで食べる昼食。皿の中央はご飯（米）で、タイ米のようでパサパサしている。炊く前に油でいためるそう。ご飯の上に載っているのは、少し辛いサルサ。こちらのご飯をそのままでは、美味しくない。このサルサをかけて食べる。サルサを掛けるのは、私くらいかもしれないが。その左側が小豆に似た豆（こちらでは、フリフォーレスと言う。）ご飯の上側にあるのが、サラダ。レタスやトマトなど。こちらの人は、あまり生野菜を食べないらしい。ご飯の下側が、バナナを油でいたもの（こちらでは、マグロと言う）。これは甘い。そして、ご飯の右側は、白いソースの掛った鳥料理。これに甘いジュースがついて、100コルドバ（約400円）だ。これらを食べ終わると夜まで胃が持たれる。こちらの男性や女性はみんな腹が出ている。まるで、妊娠でもしているかのように。ニカラグア人は、夜あまり食事をとらない理由が分かる。私は、昼はこればかり食べている。他の店はほとんど行かない。夜は自炊する。私の腹も出てきた。



12月15日、ニカラグアの国会議事堂の近くの「Centro de Convenciones Olof Palme」という会議場でニカラグア JICA 創立 25 周年記念式典が行われた。JICA 隊員は、それぞれの配属先のカウンターパートを招待した。この式典では、JICA 隊員の有志により「ソーラン節」の踊りが披露された。会場には、ダニエル・オルテガ大統領も招待された。大統領のスピーチがあったが、聞いていたある友人は、内容はお粗末で、彼は日本のことなどほとんど知らないみたいだ、と。私は大統領のスペイン語がさっぱり分からなくて情けない。オルテガ大統領は、今年11月の選挙で再選された。2006年に当選して、現在まで10年間続いている。また、別の友人は、大統領は、何時もテレビゲームをやっていて、実際は副大統領（オルテガ婦人）が実権を握っているとのこと。さて、25年前に来た JICA 隊員は、この国をどのように思って任務を遂行していたのだろうか。十数年前からこの国に住んでいて元 JICA 隊員の人に最近偶然会ったので、聞いてみたい。



12月17日、ニカラグアの障害者競技会の見学にいった。JICA の青年隊員も今回参加した競技会の障害者学校に任務している。競技は、100m走と走り幅飛びの二種類だけである。競技場には、8時ごろ着いた。スタンドには、大勢の競技者が座っていた。私も JICA の同期隊員に会えたので、同じグループに座って競技を観戦した。同期隊員は、「ロスピピートス」という NGO 団体を作業療法士として支援している。この団体は、ニカラグアではかなりの大規模な組織らしい。日本人以外にドイツ人のボランティアもいるとのこと。しばらく競技を見ていて、ふと周りを見渡したら、人がいなくなっていた。ほとんどの人が、日陰のあるスタンドの屋根の下に移動していた。熱中症をさけるためであろう。この競技場のスタンドは一体何のためにあるのだろうか。スタンドには座る人がいない。また、グラウンドも立派だけど、このような暑さでは、長くはられない。しかし、テントの下に置いてあった、トロフィーは立派だった。こちらの人は、トロフィーや賞状にはなぜか喜ぶようだ。



少し汚い話だけど、今日ほど、日本では当たり前のことが、ニカラグアでは違う、と感じたことはない。左写真は、私の家の近くにあるスーパーの男子便所だ。なぜか、この便所だけは、ドアがない。きっと誰かが壊したか、盗んだかだ。さて、便器の隣にゴミ箱がある。ニカラグアでは、このような箱がトイレに置いてある。これが普通であるらしい。私は、今までこのような箱があることを知らなかった。またこの箱の用途も知らなかった。昨日、こちらの友人と何気なく話しているなかで、彼は、ニカラグアでは普通、トイレ紙は便器に流さない。詰まるからゴミ箱に捨てる。ええー。これを聞いて驚いた。私の借家では、トイレ紙を便器に流す。詰まったことがない。外部でもたまたま用をたして、トイレ紙を一緒に流していた。後日、別の友人にも確認したが、やっぱり紙は、便器に捨てないでゴミ箱に入れているとのこと。これから私の家ではどうしたらいいのだ！。



左写真は、ニカラグアの地方紙だ。生徒の一人が、日本人が載っているの、道場に持ってきてくれた。日本人、服部重次氏の死亡17日後に、ニカラグアの裁判所は、彼の無罪を公表した、との見出しだった。スペイン語の新聞ではよく分からないので、すぐにインターネットで日本語版の記事をチェックした。「ニカラグアで12年の獄中生活を送った日本人の告白(1/4、～4/4)」

http://www.news-postseven.com/archives/20160205_382526.html

の記事を読んだ。読んだ後、私は身震いがした。ニカラグアは恐ろしい国だと思った。警察や司法など本当にいい加減な国だとつくづく思った。いつも生徒がこの国はいい加減な国だと自国の国を笑っていたが、笑うだけでは済まされぬと憤りを感じた。今回の裁判で、ニカラグア裁判所はどのように謝罪するのだろうか。